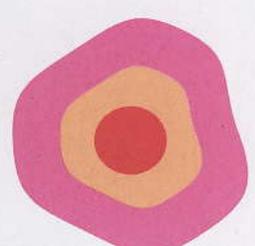


とやまファン  
倶楽部

No.22

2008



CONTENTS



リレーエッセイ 21/小林 和男	2P
第13回とやまファン倶楽部会員交流会	3P
とやま賞	4P
「夢の卵」育成事業	5P
会員交流広場	6P
富山県からのお知らせ	7P

富山の孫

小林 和男さん



プロフィール

小林和男(こばやし かずお)  
1940年長野県生まれ。東京外語大  
学ロシア語科を卒業後NHK記者ソ  
ビエトロシアを担当しモスクワ、ウィ  
ーンの特派員、モスクワ支局長を2度  
勤め海外駐在は14年。92年にソ連  
崩壊の報道で菊池寛賞。93年ソ連  
ロシアの客観報道でモスクワジャー  
ナリスト同盟賞受賞。海外ウィーク  
リーやNHKスペシャル「21世紀への  
奔流」や「21世紀の証言」などのキ  
ャスター、ラジオク編集長をつとめる。  
解説主幹を経て作新学院大学特任  
教授、日本エッセイストクラブ理事。  
サイトウ・キネン財団評議員、下野新  
聞客員論説委員  
著書に「エルミタージュの緞帳」  
(第46回日本エッセイストクラブ賞)「1  
ブドの塩〜ロシアで出会った人々  
〜」以上NHK出版「白兔で知るロシ  
ア〜ゴルバチョフからプーチンまで〜」  
かまくら春秋社、最新刊「狼と狸と大  
統領〜ロシアを見る目〜」(NHK出版)

NHKを退職するとき、大学で教え  
ないかと誘いを受けた。家族に話すと  
三人の子供たちがこぞって反対した。  
中でも強く反対したのがまだ大学生だ  
った末娘、「お父さんは人を教えられ  
るような立派な人ではない。学生が迷惑  
する」と言った。

そんな事情はあったが、海外特派員  
時代の得難い体験を若者に引き継ぐの  
も役割の一つだろうと考えて引き受けた。  
教えていると実にさまざまな若者で  
くわす。学業は振るわないが野球部で  
キャッチャーをやっているという学生が  
ゼミに入ってきた。話を聞くと小中学  
生のときにいじめっ子といじめられっ  
子の体験があるという。ガキ大将だっ  
たが、ある時自分が意識しないまま弱  
い女の子をいじめてしまい、それがきつ  
かんで子分が離れ、誰も口をきいてく  
れなくなったのだという。己の非は分か  
っている。しかし友達は離れて行ってし  
まった。どうしたら元の仲間になれる  
のか、悩んで真剣に考えたと言った。

突破口はある日やって来た。クラス全体  
が深刻な問題を抱えているとき、彼の  
発言で笑いが起き、それをきっかけに元  
のような友達の関係が戻ったのだとい  
う。「考えて、考えて笑いを取った」と彼  
は表現した。

仲間外れにされた体験が彼を成長さ  
せた。気配りだ。ガキ大将が社会を理  
解したと言えるだろう。就職試験の作  
文の課題に私はその体験を書いたらと  
勧めた。入社決定の通知に「良い学生  
を送って頂いて感謝する」という役員か  
らの手紙が添えられていた。お礼の返  
事を書きながら、教えることの面白さ  
をしみじみと感じたことだった。

ある年学生が研究室にやって来てゼ  
ミに入れて欲しいと言う。成績が悪い  
からダメだと断ったがどうしても言  
う。「僕は今まで何をやっても中途半端  
だった。根性を叩き直すため先生のゼ  
ミでやりたい」と言う。真剣だ。話を聞  
くうちに、週に何回かは両親と一緒に夕  
飯を食べることがあることが分かった。

そこでアイデアがひらめいて学生をゼ  
ミに受け入れた。

毎週ゼミで取り上げた問題を家庭に  
持ち帰り、夕食のとき両親に説明する。  
その結果をレポートにして提出すると  
いう約束をさせた。家族がどんな反応  
をするだろうか？

初めは予想通りだった。それまでテレ  
ビのお笑い番組などを見ながら食事を  
していた息子が、ある日突然まじめな  
大学での授業の話を始め意見を求めた。  
親はびっくりし、母親は笑って取り合わ  
なかったという。だが息子は真剣だ。約  
束通りやらないとゼミから放り出され  
る。息子の真剣な態度が次第に両親を  
動かす様子が毎回のレポートに現れる  
ようになった。明らかに家族が対話を  
楽しみ始めていた。

その成長を見てみると、企業はこう  
いう学生を欲しいだろうと想像できた。  
予想通り就職が決まって報告にきた彼  
に「最終の役員面接に行く時お父さん  
は君に何と言ったか」と尋ねた。頑張っ

てこいというのが普通だろう。だが父  
親の言葉は違った。「これまでやって来  
たことを存分に発揮してこい」だった  
という。毎週息子の勉強につきあつてき  
た親だから出た言葉だろう。

テレビを職業にして来た私だが、食  
事ときはテレビを消せと言っている。  
親子が顔を合わせ話しながら食事をす  
れば、親は子の悩みも感じられるだろ  
うし、何よりも子の成長を知ることが  
出来るだろう。

大学の先生になることに強く反対し  
た末娘は、縁あって黒部出身の好男子  
と知り合い結婚して、黒部で二人で犬  
猫病院をやっている。娘にはそれほど悪  
い先生でもなさそうだと体験を話した。  
二人にはもうすぐ子供が生まれる。娘  
たちはその子の教育のために居間から  
テレビをなくした。富山生まれの孫は  
きつと良い子に育ってくれるだろう。富  
山との縁は深まるばかりだ。富山が良  
くならないと私は困るのだ。

# 第13回とやまファン倶楽部会員交流会

会員と富山県及び会員相互の情報交流の場である「とやまファン倶楽部会員交流会」が7月22日(火)にホテルフロラシオン青山(東京)で約160名の会員の皆様の参加のもと盛大に開催されました。

会場には富山の新鮮な魚や地酒のほか、「富山牛のサイコロステーキ」や「夏マグロ」、「深層水あわび」、「シロエビ」を使った料理を用意し、会員の皆様に富山の味を堪能していただきながら、示唆に富んだご助言・ご提案を多くいただきました。

開会挨拶



石井知事

乾杯



長勢衆議院議員

お礼の言葉



四方県議会議長

開会挨拶



川田代表世話人

挨拶



綿貫衆議院議員

新規会員の皆様の紹介



いきいき富山館からのお知らせ



氷見きときと魚大使の  
大地誠さん(歌手)



TOYAMA  
FAN  
CLUB



平成20年度 「とやま賞」贈呈式

今年度の  
受賞者

とやま賞

富山大学大学院医学薬学研究部  
助教  
阿部 肇氏



学術研究部門 (機能物質化学)

テキサス大学MDアンダーソン癌センター  
研究員  
加藤 幸成氏



学術研究部門 (分子生物学)



映画監督  
細田 守氏

芸術文化部門 (映画)

東京大学大学院新領域創成科学研究科  
准教授  
百生 敦氏



発明発見部門 (応用物理学)

(独)物質・材料研究機構  
研究員  
廣田 憲之氏



学術研究部門 (磁気科学)

とやま賞とは

「とやま賞」は、富山県の置県百年を記念し、富山県の将来を担う有為な人材の育成に資する目的をもって昭和59年に創設され、今回で25回目を迎えました。

受賞対象者は、富山県出身者又は富山県内在住者とし、学術研究、発明発見、芸術文化及びスポーツの分野において顕著な業績を挙げ、かつ、将来の活躍が期待される個人又は団体を対象としており、県内外で活躍されている方を表彰し、その活動を奨励しております。

今年度の贈呈式及び記念講演会は、5月22日(木)に富山国際会議場メインホールで行われ、学術研究部門で3名、発明発見部門で1名、芸術文化部門で1名の、計5名の方々が受賞されました。

平成20年度  
贈呈式及び記念講演

贈呈式

- ◆あいさつ/理事長 中沖 豊
- ◆選考経過報告/選考委員長 金岡 祐一
- ◆「とやま賞」贈呈
- ◆祝辞/富山県知事 石井 隆一  
富山県議会議長 四方 正治
- ◆各受賞者の言葉

記念講演

- ◆講師 丸山 茂徳氏(東京工業大学大学院教授)
- ◆演題 「21世紀の人間社会と富山  
— 地球温暖化? 寒冷化? —」

丸山先生は、今後地球は温暖化するのではなく、寒冷化に向かうということを示しながら説明されました。また、人口増加による世界的な資源不足、食糧不足が2020年から始まる「2020年問題」についても言及されるなど、興味深い話が満載の講演でした。



## 「夢の卵」 育成事業



子どもたちにいろいろな可能性を秘めた夢を数多く持ってもらい、自分の将来について考えてもらうため、将来の夢を書いた作文を募集し、優秀者を各分野の第一人者のもとに派遣する事業です。

今年度は650作品の応募があり、その中から選ばれた6名の子どもたちに、夏休み期間中、夢に一步近づいてもらうために、短期入門してもらいました。

### 小学生の部

滑川市立西部小学校5年 松本 花林さん

#### 入門 内容

「アトピー性皮膚炎で悩む患者さんを救う皮膚科医になりたい。」という夢を抱きながら国立成育医療センターの大矢幸弘さん(アレルギー科医長)のもとに短期入門しました。



高岡市立伏木小学校6年 飯田絵黎奈さん

#### 入門 内容

「人を笑顔にする魔法のデザートを作りたい。」という夢を抱きながら(株)アーシュ・ツジグチの辻口博啓さんとモカ洋菓子店の西尾由紀夫さんのもとに短期入門しました。



南砺市立福野小学校6年 砂土居真央さん

#### 入門 内容

「人々の魂を揺さぶるホルン奏者になりたい。」という夢を抱きながらNHK交響楽団の松崎裕さん(首席ホルン奏者)のもとに短期入門しました。



### 中学生の部

滑川市立滑川中学校1年 北川 基さん

#### 入門 内容

「味色形の組み合わせで人を喜ばせるパティシエになりたい。」という夢を抱きながら(株)アーシュ・ツジグチの辻口博啓さんとモカ洋菓子店の西尾由紀夫さんのもとに短期入門しました。



射水市立射北中学校2年 惣名 茜さん

#### 入門 内容

「昆虫の不思議や魅力を伝える昆虫学者になりたい。」という夢を抱きながら京都大学大学院の藤崎憲治さん(農学研究科教授)のもとに短期入門しました。



滑川市立早月中学校2年 和田 高汰さん

#### 入門 内容

「お客さんを感動させるプロサッカー選手になりたい。」という夢を抱きながら(株)カターレ富山に短期入門しました。



# 会員交流広場

～皆様からのメッセージの一部紹介～

今年度の会員交流会（7月22日（火）開催）のご案内にあわせて皆様からいただきましたメッセージを、当財団のホームページ（<http://www.t-hito.or.jp/fan/set06.htm>）に掲載させていただきます。 「富山県への助言」の一部をご紹介します。



多くの会員の皆様で賑わった会員交流会

アジア・欧米・アフリカを問わず、青少年のホームステイと学校受け入れを活発にしては如何か。

豊かな産物を「地域ブランド」として大々的にPRすべき。観光誘致にもっと力を入れるべきではないでしょうか。

すばらしい観光地が数多くあるが、滞在宿泊型の誘致、集客プランを練り上げていただきたい。

県の観光宣伝を全国的に。特に海越しの立山連峰は世界に誇れる風景であり、観光資源である。

立山のすばらしさをもっともっと宣伝すること、特に海外向けに。

自信を持って県産品の売込みを！

日本一住みやすい県、教育県、自慢できる県、美しい県、食べものの美味しい県、今後共PRに励んで下さい。

東海北陸自動車道の全線開通、北陸新幹線の近々完成に向けて富山県の観光集客にビューポイントを決めて地域毎にPR政策を推進してもらいたい。（例：五箇山合掌づくり、庄川秘峽、氷見海岸の立山連峰遠景、八尾のおわら踊り、滑川のホタルイカ、岩瀬の森家 etc）

富山の優れた点をもっともっと、誇りをもって、大げさな位、内外に情報発信したら良い。自分も心がけたい。

県内の各市町村と他府県との産業、文化、観光事業の相互交流促進の為の拠点づくりの拡大を。

東京、関西等の大学へ進学した学生諸君が一人でも多く卒業後、帰郷する様に魅力ある企業の誘致を更に拡大し続けて頂きたい。県の人口減少を喰い止めるためにも……。

住み良い県、教育県と言われながらなぜかスポーツ後進県の様です。もっとスポーツ（運動）に力を入れて欲しいと思います。

アジアの国々との友好都市拡大交流の促進。

伏木富山港のインフラを整備し、高速道路網の優位性を生じて、日本海で中心的な港を目指してほしい。

富山県には、未開発部分も多く、ことに立山一帯にはさらに開拓すべき観光分野（立山温泉、松尾峠等）もあって一層振興に力を尽くしていただきたいと存じます。

富山の住みよさをPRするのに、とかく持家率の高さ、居住面積の広さなど物的なもので表現しがちですが、富山の人々のボランティア活動、スポーツ・文化活動の豊かさ、自然と親しみ、自然と溶け込んだ生活など精神的なもので、訴えた方がよいのではないかと。

富山県内から黒四ダム等を見学して、また同じところへ戻る観光ツアーがない。（車で東京から行く場合必要）

都市部のアンテナショップで、積極的に「富山のよさ」、「富山パワー」をアピールし、「富山ファン」を増やす。

自然を大切に。野生の生き物と人間との共生の道を探求して下さい。同時に文化の香り高い県づくりを！

富山県からのお知らせ①



# 富山から夢のJリーグへ!

## — カターレ富山 J2昇格決定 —

県民サッカークラブチーム「カターレ富山」のJリーグ入りが承認されました。「富山県からJリーグチームを」という夢が、クラブ創設1年で実現し、北陸3県初のJチームが誕生しました。

来季からはJリーグディビジョン2(J2)に参戦し、全国各地で熱い戦いが繰り広げられます。

「Jリーグ」という夢の舞台で大いに活躍するよう、引き続き、皆さんの温かいご声援をよろしく願います。



(問い合わせ先)

富山県地域振興課 TEL:076-444-3114

富山県からのお知らせ②

## あなたの応援で富山県を元気に! — 元気とやま応援寄附金 —

「元気とやま応援寄附金(ふるさと納税)」は、富山県に寄附をされると、住民税などが軽減される制度です。

ふるさと富山県の人づくり、地域づくりを応援したいという皆さんの思いをカタチにさせていただきます。

皆さんからいただいた寄附は、「元気とやまの創造」のために大切に活用させていただきます。

〔寄附に関する手続きについては、下記までお問い合わせください。〕

(問い合わせ先)

富山県税務課 元気とやま応援寄附金担当  
TEL:076-444-3178

富山県HP <http://www.pref.toyama.jp/>  
「元気とやま応援寄附金」をクリックしてください

# TOYAMA FAN CLUB



## 問合先

### ■事務局

財団法人 富山県ひとづくり財団

〒930-0018 富山県富山市千歳町1-5-1 富山県教育記念館2階

TEL076-444-2000/FAX076-444-2001

E-mail:toyama@t-hito.or.jp <http://www.t-hito.or.jp>

### ■連絡所

富山県東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-6-3 都道府県会館13階

TEL03-5212-9030/FAX03-5212-9029

富山県大阪事務所

〒550-0004 大阪府大阪市西区靱本町1-9-15 近畿富山会館3階

TEL06-6445-2811/FAX06-6445-2611

富山県名古屋事務所

〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄4-1-1 中日ビル4階

TEL052-261-4237/FAX052-263-7308